

高知市地域福祉活動推進計画【第2期(2019～2024年度)】  
計画の推進に向けた取組の進捗状況(高知市社会福祉協議会)

		事業内容	取組状況(令和元年12月末時点)	進捗評価(令和元年12月末時点)		
				2024年度(目標値)	評価	今後の課題等
「ほおっちょけん」のひとづくり	ふくしの心を育む	関心を高めるきっかけづくり	<b>●ソーシャルメディアを活用した広報</b> ①ホームページ 年度当初にリニューアル実施し、閲覧者の利便性を向上した。業者との打ち合わせを毎月行い、内容の充実を図った。また、グーグルアナリティクスを活用し、各ページビュー数、ページ滞在時間、離脱率等を分析。 訪問ユーザー数(実人数)・・・13,004人(内、新規ユーザー12,933人) ページ閲覧総数(総ページビュー数)・・・60,512ページ ②フェイスブック(フォロワー数 560人) 掲載回数・・・37回、総いいね数・・・837、シェア数・・・33件 ③インスタグラム(合計フォロワー数 293人) (新規) 名士チャリティ色紙展示即売会(令和元年7月開設)で活用 きずな農園で活用 掲載回数・・・233回、総いいね数・・・1,924 ④ツイッター(フォロワー数 115人) (新規) 名士チャリティ色紙展示即売会のツイッターを開設(令和元年10月) 掲載回数・・・213回、総いいね数・・・7,238、シェア数(リツイート数)・・・2,093件	<b>【情報発信】</b> ・ホームページ運営(アクセス数) 165,000/年 ※リニューアルにより実績値のアクセス数カウントできず、ページ閲覧総数が参照値となる ・フェイスブック運営(記事掲載数) 50回/年 ・NEWSほおっちょけん(発行部数) 10,000部 ※発行物に関しては、リニューアルに向けて検討中につき現在休止中。	B	ホームページの情報をより分かりやすいものにしていくため、ホームページ委託業者と、定期的な打ち合わせを継続する。 各ソーシャルメディアへの掲載回数を増やすため、SNSマニュアルを作成し、組織内で積極的な更新を行う。 情報の受け手の視点に立った広報活動を行うため、社協内研修を行う(令和2年2月開催、講師:NHK高知放送局 北澤局長)。
		「ほおっちょけん」の住民意識づくり	<b>●高知市内の各圏域において、地域共生社会の実現に向けて第2期地域福祉活動推進計画の周知を行う。</b> (新規) ①計画の説明 131回(延べ2,313人) ②地域福祉コーディネーターのチラシ配布 258回(延べ人数4,697人) (新規) ③ボランティアセンターの説明 119回(延べ人数5,509人) <b>●「ほおっちょけん」キャラクター広報物</b> ①ほおっちょけんロゴマークが入った都まんを製作・販売 社会福祉大会、名士チャリティ色紙展示即売会、ブロック研修会等で販売(410個販売) ②ほおっちょけんポロシャツを就労支援事業所きずなで製作・販売(50着販売) (新規) ③トートバッグ専門ブランド「ROOTOTE」が無償で制作したほおっちょけんトートバッグを名士チャリティ色紙展示即売会にて販売 (新規) ④高知市社会福祉大会表彰者記念品として「ほおっちょけんコースター」250個を製作 (新規) ⑤「くらし何でも相談会」でのスタッフ用としてほおっちょけんジャンパー50着を製作 ⑥高知市内の小中学校等の児童生徒等への啓発のため「ほおっちょけんシール」を4,424枚配布 (新規) ⑦春野あじさい会館にてほおっちょけんバッグ150個を製作、利用者への配布や販売 ⑧ほおっちょけんバッジ 143個(総数1,714個)(地域福祉活動への寄附) <b>●新聞掲載等の回数(5件)</b>	・ほおっちょけんシール 5,000枚/年 ・ほおっちょけんバッジ 配布数1,000個	A	引き続き、各圏域に地域福祉コーディネーターが出向き、地域で活動する各種団体や組織の代表者等に働きかけ、第2期地域福祉活動推進計画の周知を行う。  ほおっちょけんキャラクターのさらなる活用を検討する ①JC加入企業と共同してほおっちょけんどら焼きを作成・販売 ②ほおっちょけんについて学んだ後、その思いを形にする。 (ほおっちょけんコンクールの開催及びほおっちょけん塗り絵の作成を検討中。共同募金助成金申請を計画)
		「ほおっちょけん」学習(福祉教育)の拡充	<b>●ほおっちょけん学習(福祉教育)の推進</b> ①ほおっちょけん学習の開催 開催数 保育園・幼稚園 9園(内、予定2園) 小学校(放課後児童クラブを含む) 10校(内、予定4校) ほおっちょけん学習受講生 568名 学習に参画した地域住民 延べ63名 (新規) ②福祉教育の拡充に向けた取り組み 年代別福祉教育プログラムの開発 ほおっちょけん学習サポーターの養成に向けた人材把握、プログラムの検討 福祉教育実践ガイドブックの作成検討 ③ふれあい体験学習 学習受講生 3,734人 ④高等学校・専門学校・大学等での福祉教育の実施 県社協より県内高等学校における福祉の仕事説明会の協力 4校 春野高校での連携授業・高知大学地域協働学部での事業実施	<b>【「ほおっちょけん」の展開】</b> ・ほおっちょけん学習(福祉教育) 保育園等 20園 小・中学校 18校 地域・民間企業 40箇所 ・ほおっちょけん学習サポーター(新規) 40名養成 ※ほおっちょけん学習サポーター養成は令和2年度からの予定  ・ふれあい体験学習 <b>【市委託業務】</b> 5,000名/年	B	学習方法や学習素材を整理し、保育園や幼稚園、小学校等で実践してきた内容を年代別、理解度等にまとめ、総合的な学習の時間などで参考となるよう福祉教育プログラムを作成。実践に向けた提案を行うため福祉教育実践ガイドを用いた働きかけを行う。また、企業向けのほおっちょけん学習の実践に向け、モデル的に企業の働きかけを行う。 福祉教育の取り組みを通して、学校と地域が繋がりをもち、子どもと地域住民が共に学びあうことで福祉意識の醸成を図ります。ほおっちょけん学習の推進に向けて現在参画して下さっている地域住民をはじめとする「ほおっちょけん学習サポーター」の養成を実施する。また、課内にて、地域福祉教育の実践に向けたプログラムを構築する取り組みを継続する。

		事業内容	取組状況(令和元年12月末時点)	進捗評価(令和元年12月末時点)		
				2024年度(目標値)	評価	今後の課題等
「ほおつちよけん」のこころづくり	ふくしの担い手を育む	活動につながるきっかけづくり	<ul style="list-style-type: none"> <li>●<b>既存ボランティアへの情報発信(新規)</b> ボランティア情報を気くばりさんへ2か月に1回配信。その情報により気くばりさんの活動へつながった事例11件。</li> <li>●<b>(新規)ボランティア登録者の増加</b> こうち笑顔マイレージ 39名(総数 373名) 気くばりさん 58名(総数 611名) 福祉委員 13名(総数 179名) 導入14地区 ※稼働率については中間評価及び最終年度で行う</li> <li>●<b>ボランティア団体への支援</b> ボランティア保険の案内受付</li> <li>●<b>ボランティアのニーズ受付</b> ボランティアに関する相談 106件</li> <li>●<b>ボランティアのマッチング</b> 寄せられた相談に対して気くばりさんやマイレージボランティアをマッチング 97件</li> <li>●<b>マイレージボランティア・気くばりさん・福祉委員の支援</b> 朝倉地区・江ノ口地区にて福祉委員の意見交換会実施 <b>(新規)</b> 三里地区にてボランティア研修・フォローアップ研修を開催 マイレージボランティアのフォローアップ研修を開催</li> <li>●<b>市の実施する人材育成講座等での啓発</b></li> <li>●<b>(新規)ボランティアに関連する団体との意見交換の実施</b></li> <li>●<b>大学生等の若い世代との協働(新規)</b> 旭オンリーワンや街頭募金等、地域活動を大学生や専門学生に情報提供し、ボランティアのマッチングを実施</li> <li>●<b>高齢者の社会参加の促進</b> こうち笑顔マイレージボランティアの登録者が登録施設でのボランティアにとどまらず、地域での困りごとへのちょっとしたボランティアへつながるよう情報提供を行うとともに、生活支援ボランティア研修への参加促進を行った。</li> </ul>	<b>【ボランティア登録者数】</b> ・こうち笑顔マイレージ 800名 稼働率80% ・気くばりさん 900名 稼働率80% ・福祉委員 導入25地区 ・ボランティアに関する相談 500名 件数100件/年	C	ボランティア登録者やボランティア受入団体等が、スムーズにボランティアセンターを活用しやすい環境を整える必要がある。定期的なニーズの把握し、スムーズにマッチングができるようボランティアセンターの充実を図る。 また、既存のふくしの担い手が続けて活動できるよう、情報提供と相談対応を継続する。さらに、新たな担い手の発掘ができるよう活動の周知や地域への働きかけを実施する。
		担い手がいきいきと活躍できる環境づくり	<ul style="list-style-type: none"> <li>●<b>ボランティアへのフォローアップ体制</b> 既存の登録者のフォローアップ研修を開催予定 1回 自主グループの活動支援 ボランティアと受け入れ施設をつなぐ連絡会を開催予定 1回(ボランティア連絡会)</li> </ul>	<b>【既存ボランティアのフォローアップ体制】</b> ・ボランティア連絡会 2回/年 ・フォローアップ研修 2回/年	C	登録者の人材バンク化、社会資源情報の整理、データベース化を継続して実施し、活動者がボランティアセンターを活用しやすい環境を整える。 地域福祉コーディネーターと協働し、『ほおつちよけん相談窓口』の相談解決に向けたボランティアやマイレージ登録者等のコーディネーター、担い手の活動を支えるためのフォローアップ研修、相談対応、情報提供や活動者同士のネットワーク支援等、活動者のニーズに対応でき、ボランティア活動への一歩をふみだすための働きかけを継続して行う。
「ほおつちよけん」のまちづくり	その人らしい暮らしを支える	福祉サービス利用支援(生活困窮者支援)	<ul style="list-style-type: none"> <li>●<b>くらし何でも相談会の実施(10月)</b> 広報:チラシ約4,000枚を関係各所へ配布, 他, ラジオ・あかるいまち・高知新聞・SNS等 相談件数:21件 参加団体:20団体, 46名 <b>(新規)</b> ※年度内(1月)に西部圏域で第2回相談会実施予定。</li> <li>●<b>就労準備支援プログラム拡充(新規)</b> 運転手パート雇用(R1.11月～) <b>(新規)</b> 農園作業・薪割り作業への送迎プログラム開始(15回, 16名 R1.11月～12月末)</li> <li>●<b>農福連携研究会への参加(2回)</b> 事業所開拓:4カ所, 就労体験・訓練つなぎ:3名, 農家受入(一般雇用):2名</li> <li>●<b>(新規)無料職業紹介事業</b> R1.10月申請(R2年1月に開設見込み)</li> </ul>		A	潜在化する生活困窮者へのアウトリーチと、複合的な生活課題に対するワンストップ型の相談支援体制を構築することを目的に開催し、こうちセーフティネット連絡会(ネットワーク)を活用することで各団体の連携促進やたらい回しにしない意識の醸成を図っている。今後はネットワークを中心とした圏域単位の相談会から、さらに住民に身近な圏域にある拠点と連携した取組へシフトさせていけるよう関係機関と協議していく。 農福連携の推進においては研究会の発足により両分野で意見交換していく場が確保された。その上で就労体験や訓練について柔軟な受け入れが可能な農家の掘り起こしと、好事例を参考にマッチングのしくみづくりを推進していく。

		事業内容	取組状況(令和元年12月末時点)	進捗評価(令和元年12月末時点)		
				2024年度(目標値)	評価	今後の課題等
「ほおっちょけん」のまちづくり	その人らしい暮らしを支える	福祉サービス利用支援(権利擁護の推進)	<ul style="list-style-type: none"> <li>●成年後見利用促進に向けて家庭裁判所主催による行政との3者会議に出席し、中核機関設置などに向けて具体的な協議を開始</li> <li>●市民後見人養成講座を実施し、7名が修了。市民後見人材バンク新規登録者4名。人材バンク登録者に年2回フォローアップ研修による質の向上を図った。</li> <li>●(新規)これからあんしんサポート事業については、より利用しやすいよう対象者の資産上限の撤廃を行い、支援内容の充実を目指して新サービスの創設を行った。また、預託金の支出が困難な利用者に対する対応の検討を開始した。</li> </ul>		A	中核機関設置については、行政と密な連絡をとり、センターが現在行っている中核機能的な機能を発展的に展開できるよう話し合いを重ねる必要がある。市民後見人が受任できる案件が伸びていないことから首長申立てにおける市民後見人が受任可能な案件について、市民後見活動が安心してできるよう利用支援事業の見直しを行政へ継続して働きかけを行う必要がある。これからあんしんサポート事業を利用したくても経済的な問題で預託金を支出できない利用希望者に対する取り組みについて、ファンドレイジングの検討を行い、対応可能になるよう見直しを行う。
		在宅福祉サービス	<ul style="list-style-type: none"> <li>●(新規)在宅福祉サービスの職員が個別支援の利用者周辺地域の困りごとに気付き、相談窓口等につなげる仕組み「地域はっと」の取り組みを開始(R1.9月～)</li> </ul>		B	現在は「地域はっと」の実績がなく、次年度も継続して実施する。
		地域福祉活動推進	<ul style="list-style-type: none"> <li>●各種会議への参画 地域ケア会議等におけるインフォーマルサービスに関する情報提供に努めた。 ①関係機関との情報交換(地域高齢者支援センターブロック会他):33回 ②地域ケア会議:31回 ③認知症サポーター養成講座での協働:18回 ④障害者相談センターとの意見交換:9回 ⑤スクールソーシャルワーカーとの意見交換:8回 ⑥個別支援分野との連携:46件</li> <li>●行政、専門機関、社協の協働による地域支援強化についての検討</li> <li>●屋上屋を重ねず、住民活動にとって「負担」とならない提案の検討</li> </ul>		B	各関係機関の会議や地域ケア会議等へ参画し、情報収集、ニーズ把握、情報交換を行っている。福祉分野にとどまらず、様々な分野における活動を知ることにより、地域ケア会議等における個別ニーズの把握、インフォーマル資源につなげられるように努める。
ひとがつながる場づくり	ひとがつながる場づくり	気軽に集まることができる「集いの場」づくり	<ul style="list-style-type: none"> <li>●「集いの場」づくり (新規) 立上げ支援 ①子育てサロン 1ヶ所(総数 18ヶ所) ②サロン 9ヶ所(総数 76ヶ所) ③認知症カフェ 0ヶ所(総数26件) ④子ども食堂 3ヶ所(総数33ヶ所)</li> <li>●(新規) 空きスペースの有効活用に向けた検討 高知市社会福祉法人連絡協議会の会員法人に対し、空きスペースに関するヒアリング及び集いの場づくりの取り組み意向について調査を実施(18法人) また、(社福)高知新聞社会福祉事業団あかねの里、(社福)土佐香美福祉会ウエルプラザ高知においては、居場所づくりの実現に向けて施設周辺の担当民生委員や町内会役員、関係機関等との検討会を実施。今後の取り組みの展開に向けて準備を進めている。</li> </ul>	【ひとがつながる場づくり】 ・集いの場 ①子育てサロン 41ヶ所 ②サロン 120ヶ所 ③認知症カフェ 41ヶ所 ④子ども食堂 41ヶ所	B	住民の地域福祉活動への支援を継続し、分野や世代にかかわらず集うことのできる場へと展開できるよう立ち上げ支援や運営支援を促進する。福祉分野において其々の専門機関や各所管課と協働する機会も多いため、各分野での意見交換や日頃からの協議を継続し、役割分担、今後のかかわり等の支援について明確にする。 町内会程度のエリアにおける話し合いの場づくりは、現状を維持し、このまま継続していく。令和元年度の好事例を検証し、継続して地域住民等へ提供する。
		身近な生活の困りごとについて考える「話し合いの場」づくり	<ul style="list-style-type: none"> <li>●話し合いの場づくり 小地域における話し合いの場づくり:168回実施</li> <li>●(新規)▶好事例の情報提供 小高坂地区の八反町西町内会における避難行動要支援者対策を通じた支え合いの取り組みについて、その進め方等を整理し、他地区へと情報提供を実施。また、他市町村の先進事例として、高知県日高村にて視察研修を実施し、小地域単位での話し合いの場づくりの取り組みを学ぶことで、本市における住民主体の話し合いの場づくりの更なる展開に向けた検討を実施している。 高齢者支援センター出張所をはじめ、医療・福祉の専門職(機関)への参加の呼び掛けを行い、住民と専門職が共に話し合うことができる場づくりに努めた。</li> </ul>	・話し合いの場 小地域単位 30回/年		

		事業内容	取組状況(令和元年12月末時点)	進捗評価(令和元年12月末時点)		
				2024年度(目標値)	評価	今後の課題等
「ほおつちよけん」のまちづくり	多様な交流の機会づくり	多様な主体がつながる	<p><b>●地区社会福祉協議会連合会による情報交換会・研修会等の開催支援</b> 地区社会福祉協議会連合会による情報交換会・研修会等の開催を支援し、地区社協の地域福祉活動の活性化・地区社協と各種団体・活動者との情報共有・交流の機会づくりを行った。 ○世話人会:6回 ○全体研修会:2回 ・「地域と育み、進める地域福祉計画～安芸市地域福祉活動計画の策定をとおして～」 講師:安芸市社会福祉協議会, 安芸市住民 ・「先進地視察研修報告」「情報交換会の振り返りとまとめ」 講師:高知大学 玉里恵美子 氏 ○情報交換会:4回 西部「地『参』地『笑』福祉でまちづくり～話し合いからつながる地域の輪～」 南部「地『参』地『笑』福祉でまちづくり～食でつながる地域の輪～」 東部「企業と一緒に地『参』地『笑』福祉でまちづくり」 北部「地『参』地『笑』福祉でまちづくり～“たすけ手まかせ手”の声でつながる地域の輪～」</p> <p><b>●福祉委員交流会の実施</b> 朝倉地区、江ノ口東地区において福祉委員交流会を開催。日頃の活動の共有や今後の活動の展開に向けて意見交換を実施</p> <p><b>●(新規)社会福祉法人の公益的な取り組みとの連携による多様な交流の機会づくり(再掲)</b> (社福)高知新聞社会福祉事業団あかねの里、(社福)土佐秀美福祉会ウエルプラザ高知において、居場所づくりの実現に向けて施設周辺の担当民生委員や町内会役員、関係機関等との検討会を実施。今後の取り組みの展開に向けて準備を進めている。</p>		B	<p>地区社会福祉協議会連合会による情報交換会・研修会等の開催支援を継続する。社会福祉法人の公益的な取り組みと連携し、地域を基盤とした多様な主体が交流できる機会づくりを促進する。また、多様な主体が地域の課題を解決しようとする取り組みへ参画し、活動の活性化や取り組みの拡充に向けた働きかけを行う。 既存の地域福祉活動において、これまで地域で交流の持たれていなかった住民が参加できるよう社会資源の情報収集、整理、提供するとともに学生や若い世代が地域活動へ参加できるよう既存の活動や取り組みへの働きかけを継続する。</p>
			<p><b>(新規)①『ほおつちよけん相談窓口』開設支援及び市社協独自の生活支援サービスの開発検討(相談窓口設置)</b> 相談窓口実績(5モデル地区) 東西南北各1箇所の設置に向けて、行政担当課とともにモデル地区の薬局でのヒアリング、各地区の各種活動団体(民児協・地区社協含む)の説明や協議、モデル地区の民生委員へのアンケートを実施した。 高知市社会福祉法人連絡協議会での検討:一宮地区をモデルに相談窓口に取り組む2会員法人を中心に、広く住民の相談を受け止められる体制の整備に向けた検討を行っている。 社協独自の支援サービス開発に向けた取り組みとして「地域はっと」を検討し、実施。</p> <p><b>(新規)②住民が主体的に地域の中で課題解決できる仕組み</b> 相談窓口へ寄せられる地域の生活の困りごと等を課題解決できる仕組みとして、(仮称)ほおつちよけんネットワーク会議を地域へ提案している。 住民主体の生活支援サービスの立ち上げに向けて、ボランティア活動者への研修の検討、社会資源の情報整理を実施。</p> <p><b>③社会福祉法人連絡協議会の取り組み</b> 社会福祉法人が連携することへの意義とその可能性を発展させることに注力しながら、市民が地域の中で相談することができる相談窓口の設置に向けた準備を進め、次年度以降、本格的な協議会活動を行うための基盤づくりに取り組んでいる。</p>		B	<p>モデル地区のみでの実施であり、他地区での展開の検討を市と行う必要がある。また、開設した相談窓口へのフォロー、相談対応、地域の中で解決できる仕組みについては、継続して事業を充実していく。 (仮称)ほおつちよけんネットワーク会議の実施においては地域における担い手の負担軽減を考慮し、地域の既存の会議を整理し、同機能を持つ会議の活用について住民とともに検討する。必要な生活支援サービス等の立ち上げを目指して、地域の中で課題解決できる仕組みづくりを継続する。 社会福祉法人連絡協議会では、ほおつちよけん相談窓口の推進や災害への取り組みを継続するとともに、目的にある社会福祉法人が分野や立場を超えて相互に連携し、「地域における公益的な取り組み」を行い、地域の社会資源として役割を果たすことができるよう各部会を置き、全会員法人で検討を行う。</p>
			<p><b>●市との連携・協働体制</b> <b>(新規)</b>行政との災害ボランティアセンター運営についての協定締結に向けて検討し、その協議の場で参画の必要性についても検討する。他市町村の協定を参考に協定案を作成。高知市地域コミュニティ推進課を窓口協議を進めている。</p> <p><b>●研修や模擬訓練の実施</b> 日赤奉仕団主催「赤十字のつどい」にて災害ボランティアセンター模擬訓練を実施。訓練参加者103名。以降はモデル地区を設定し、訓練を実施する際のアプローチ対象(団体)の検討を行う。</p> <p><b>●(新規)災害ボランティアセンター運営職員理解度指標を策定</b> 運営模擬訓練を課内で実施した。全職員向けは未実施。 災害ボランティアセンター運営職員理解度指標に基づき令和2年度から実施に向けて検討を行う。</p>		C	<p>住民や関係団体、行政との平時からの連携・協働体制を取り、災害時に迅速な対応ができるよう協議、意見交換、研修の場を設ける。(三者協定及び災害ボランティアセンター連絡会の運営、災害ボランティアセンターの運営に関する協定締結等) 災害ボランティアセンター職員理解度指標に基づいた研修・訓練計画の作成・実施や、他市町村への支援メニューの整理、備蓄や資機材の整備を段階的に実施し、大規模災害への備えを拡充する。</p>
	地域で共に支え合うしくみづくり	地域の生活の困りごとの解決に向けたつながりづくり				
		大規模災害に備える仕組みづくり				

		事業内容	取組状況(令和元年12月末時点)	進捗評価(令和元年12月末時点)		
				2024年度(目標値)	評価	今後の課題等
市社協の機能強化	市社協の周知度の向上	様々な活動を通して知ってもらい機会づくり	<ul style="list-style-type: none"> <li>●ソーシャルメディアを活用した広報(関心を高めるきっかけづくりへ記載)</li> <li>●ほおっちょけん出前講座の実施(14件, 受講者251名) 権利擁護関係 4件(85名), 地域福祉関係 1件(26名), 介護障害関係 3件(47名), レクリエーション関係 6件(93名)</li> <li>●(新規)広報戦略プランを作成中(令和元年途中から令和4年度) 「市社協に関心をもっていただく」「社会課題を共有する」「住民が参画したいと思える」を基本コンセプトとして7つの戦略事業を進める。</li> <li>●(新規)年間事業報告(パフォーマンスレポート)を作成中 1年間の社協活動を分かりやすく掲載し, 会員や関係機関等へ配布する(共同募金助成金申請予定)</li> <li>●地域福祉コーディネーターの地域支援活動を通して, 市社協の周知を行う 地区への訪問 1,367回</li> </ul>	【高知市社会福祉協議会の ・「名前も活動の中身もよく知っている」「名前は知っている」人の割合 市民 50% 町内会長・自治会長 70%	B	ホームページを情報がより分かりやすいものにしていくため, ホームページ委託業者と, 今後も定期的に打ち合わせを行う。 各ソーシャルメディアへの掲載回数を増やすため, SNSマニュアルの作成, 組織内で共有する。 広報戦略プランを実施していくための体制づくりを行う。 年間事業報告の送付先については町内会に配布できるよう市と協議する。
	地域福祉コーディネーターの役割・機能の明確化		<ul style="list-style-type: none"> <li>●(新規)キャリアパスの運用による計画的な人材育成(研修担当者, OJT担当者配置)を図った。 (新規)①【OJTの実施】 新任職員・転属職員へのOJT担当者の配置を行うとともに, 地域協働課研修計画に基づく育成のための個別面接を実施し, 弱みの部分等の指導に努めた。</li> <li>(新規)②【OFF-JTの実施】 職場内OFF-JTとしては, 総務調整課の研修に参加し, 社協職員としての研鑽に努めた。また, 高知県社協等の主催する研修に参加し, 研修振り返りの会の実施・課内会を通じた研修報告を行い, 研修参加者のみならず, 地域協働課職員全員の学びにつなげた。</li> <li>(新規)③【SDSの実施】 キャリアパスと自己啓発カードを連動させ, 目指す地域福祉コーディネーター像を明確にするとともに, 個人の課題を自ら考え目標設定をすることができた。評価する中で, 現状のOJT・OFF-JTでは補いきれない内容(ファシリテーション・企画力・調整力・アセスメント力等)については今後充実させていく必要性がある。</li> </ul>		B	現状の研修・講座では補いきれない内容(ファシリテーション・企画力・調整力・アセスメント力等)や職員それぞれの資質向上に向けて研修計画に基づき, 職員の育成を継続する。 関係機関等との情報交換, 住民への地域福祉コーディネーターの周知活動を通じ, 地域福祉コーディネーターの役割機能を継続して伝える。
	複合的な地域福祉課題への解決力の向上	様々な相談に対応できる職員の育成	<ul style="list-style-type: none"> <li>●(新規)本年度からブランディング部会, 人間力向上部会, 利用者あんしん部会を職員の構成により設置し, 市社協の存在意義や役割期待は何かを部会ごとに検討している。</li> <li>●制度の挟間や潜在化している生活困窮者への支援, 個人の権利を擁護するための専門的な知識や技能の取得に向けて, 国や県レベル, また県社会福祉協議会主催等の研修会や連携会議に積極的に参加し, さらに職場内での共有も図っている。</li> <li>●(新規)地域福祉を推進するべく, 地域アセスメントを深めるための研修会を開催し, 社協職員のみならず市職員や関係機関と共に学びあうことで, スキルアップを図った。</li> <li>●地域支援事例検討会や地域力強化実践検討会を行うことで, 職員同士が学びあい高めあえる機会になった。</li> </ul>		B	各部会からの提案を受け次年度の事業・予算化に向けて検討する。 行政や関係機関と連携しながら多種多様な相談に対応できるよう事例検討会への参加を行うなど職員一人一人が本人に寄り添い, 本人主体の支援に継続して取り組んでいく。 各種講座・研修への参加, 課内で実施する地域支援事例検討会等を継続し, 地域福祉を推進していくためのスキルアップを図る。 地域力の強化を推進していく上で, 市との事務局会や事例を通じた検討・協議は今後も欠かすことができない。上半期, 下半期の実践報告を継続し, 協働の中核を担う地域共生社会推進室と密に連携し, 支援の見立てや関係機関との調整等の協議を行うことにより, 地域福祉コーディネーターのスキルアップを図る。
	地域福祉課題に取り組む組織的チャレンジ		<ul style="list-style-type: none"> <li>●地域福祉課題への取り組み ①高知市, 高知市民生委員児童委員協議会連合会, 高知市地区社会福祉協議会連合会, 市社協の4者合同主催の第59回高知市社会福祉大会において, 「引きこもり」をテーマに家族会や当事者の生の声を聞シンポジウムが開催された。この様に, 関係機関・参加者の地域住民と地域福祉課題に取り組む中で, 市社協の果たすべき役割について検討している。</li> <li>●ファンドレイジングの取り組み ①令和元年8月22日に市社協の理事・監事・評議員に対してファンドレイジング研修を実施した。(出席者39名) ②ファンドレイジングプロジェクトとしては, スケジュールの見直し, 役割の見直し, 実務の整理を行うために1月にメンバー全員で合宿を実施予定。 ③死後事務における事業の推進・拡大を軸としたファンドレイジング計画を協議中。 ④会員法人拡大として, 高知市医師会を通じて市内の病院へ加入の呼びかけを行う(18法人新規加入) ⑤市民からの遺贈 日常生活自立支援事業を利用して故人から資産を遺贈していただいた。</li> <li>●共同募金の取り組み (新規)①助成審査の見直しを実施し, 新たに公募助成を開始 (新規)②審査委員会を新たに設置 (新規)③新規助成を含む共同募金における審査の仕組みを再編する。</li> </ul>		B	社会福祉大会のように関係機関との継続した取り組みを進める中で, 新規事業の創設等, 課題解決に向けて組織内での検討を進める。 ファンドレイジングプロジェクトとしては, それぞれ役割分担を決めて進めているが, 進捗状況としては順調とはいえない。 共同募金としては, 新規実施となった助成審査の仕組みを評価し, 地域をよくする仕組みとしての機能を満たす取り組みとなっていくための検討を重ねる。